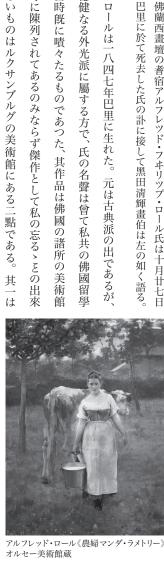
巨匠ロール氏逝く

佛蘭西畫壇の耆宿アルフレツド・フヰリツプ・ロール氏は十月廿七日

ロールは一八四七年巴里に生れた。 元は古典派の出であるが

等に陳列されてあるのみならず傑作として私の忘るゝとの出來 當時既に嘖々たるものであつた、其作品は佛國の諸所の美術館

ないものはルクサンブルグの美術館にある二點である。 穏健なる外光派に屬する方で、氏の名聲は曾て私共の佛國留學 其一は



[『美術月報』]-五大正八年|二月二六日]

時、

現代佛國畫家中の泰斗であつた。

もので、いづれも農家の風情を表はしたものだが實に立派な作である、氏は一八八八年サロンが新舊二派に分れた の子供等と共に家の入口の階段に腰を下ろして眺めて居る圖と、今一つは農婦が牛乳を搾つて持歸る樣を寫した

新派即ち國民美術協會の創立委員長となり、其後ちピユヴイスドシヤヴンヌの後を繼いで其會頭になつた程で、

「ノルマンデイに於て」と題する畫で、前景に牛が描いてあつて其側に鷄が二三羽ゐるのを子供を抱いた農婦が他

賞、即座に国家の買い上げとなり、リュクサンブール美術館に飾られた。ロールについては岡田三郎助による追悼文もある ルセー美術館に所蔵される《農婦マンダ・ラメトリー》を指すのだろう。この作品は一八八八年のサロンの年度作品賞を受 は労働をテーマとした外交派の作風で知られる。黒田のいう「農婦が牛乳を搾つて持帰る様を写したもの」とは、 ニー (Henri-Joseph Harpignieぬ 1九~ 1九 1六年)についても、黒田は追悼記事を寄せている (『自然派の残党と云ふ感』』『美 (「ALFRED-PHILIPPE ROKIの事ども。」『中央美術』五一大正八年二二月)。またロールの師の一人であるアンリ=ジョセフ・アルビ 、ルフレッド・フィリップ=ロール (Alfred-Philippe Roll八四六~一九一九年 黒田が生年を一八四七年としているのは誤りである) 、現在オ

術』1-三大正六年一月『絵画の将来』所収)。